MACF 礼拝説教要旨
2021 年 4 月 18 日
「この世に倣うのではなく」

12:2 あなたがたはこの世に倣ってはなりません。
むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、
何が神の御心であるか、何が善いことで、
神に喜ばれ、また完全なことであるかを
わきまえるようになりなさい。」
＊＊＊＊
パウロは礼拝者としての生き方を勧めたあとで
「この世に倣ってはならない」と語り
「心を新たにして自分を変えていただきなさい」
と語っています。

1）この世に倣ってはならない
2）心を新たにして自分を変えていただく
という事柄を考えてみたいと思います。

1）この世に倣ってはならない
「この世に倣う」とは「この世の一般的な価値判断、世界観」に従って判断するという生き方です。
わかりやすく説明するために「この世」を
「見える世界」と考えて話をすすめたいと思います。
「見える世界の価値判断」は、私たちは生まれた時から大いに影響を受けており、極論すれば、その価値判断こそ私たちの興味のすべてになりかねません。
一般的には「小さいより大きい」「狭いより広い」少ないより多い」「できないより出来る」「持っていないより持っていること」こそ大事だと考える世界であり、世の中に浸透している考え方です。
そこには競争、自慢、高慢、卑屈、屈辱感などが溢れています。
「今あるもので満足する」ことを許さない空気がそこにはあります。
しかも、その基準が常に変わるので、心が落ち着くことはありません。
もっと欲しい、もっと欲しいという、気をつけないと貪欲の罠がそこには存在します。
神に愛され、赦された存在である私たちは、そういう「罠」や「エゴ」から解放されて、自由に礼拝者として神の恵みを自覚しながら今を丁寧に生きられるはずだとパウロは考えています。
そのためにこそ、「この世に倣う」生き方以外の生き方があることを知る必要があるのです。

2）心を新たにして自分を変えていただく

この世に倣う生き方から脱却するためには、自分の努力というより神様に変えていただく必要があります。
そして、そのためには「心を新たにされる」「自分を変えていただく」必要があるのです。

まず、心を新たにということですが「見える世界と見えない世界がある」ことをしっかり自覚することが重要です。
今まで見える世界のことばかり考えて生きてきたとするとよほど心を新しくしないと、その重要性に気づけないし、そもそも見えない世界の出来事など生きていく上で関係ないような気がしてしまうのです。
世界は「見える世界」がすべてではありません。
ただ見えない世界の説明は言葉で表現できにくいので神様からの介入による気づきがないと、さっぱりわからないのです。
聖書の話を聞いて感動したとか、イエス様の話が自分のこととして伝わってきたという出来事は「心を新しくされている」出発点になるかもしれません。
つまり「心が動かされる」という出来事が存在するのです。

さらに「自分を変えていただく」ということですが、「自分を変えようと頑張る」というのは世の流れの中ではごく当たり前のこととして実践されています。
自分を変えようと断食、黙想、勉強などをする、そこで変われる部分があることは事実です。
しかし、神が私たちを新しく心を変えようとしているのは「私にとって都合がよくなる」とか「私の願いがかなう」とか「自分の思い通りに生きられる」ということのためではありません。
むしろ「何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえる」ためです。「神の存在を喜び」「神の心をうなづけるように」「神の喜びに共感できるように」私たちを新しく変えようとしているのです。つまり、私たちは「神を喜ぶ」とか「神の思いを自分のことのように喜ぶ心」を持ち合わせていないのです。

私たちの心はほぼ常に「好きか嫌いか」の判断で動いています。
自分にとって都合が良いか、悪いかで決断がなされます。神様はその憐れみ深さと恵みによって、そういう心をもった私たちが神様を喜べるように変えてくださるのです。神の心を考え、神と価値判断をおなじにして生きられるのです。
実は、そこにこそ、私たちの幸せの土台があります。神は不変であり、この世とその価値観は変化するからです。
神の招いてくださる「新しい世界」は「恵みと喜び、平安」の世界です。なかなか、それを実感できず、どうしてもこの世の流れに心を
奪われてしまいやすいのですが、
「この世の流れ以外の世界があり、神がそこに心を通じさせてくださることを信じる」ことができますように。
聖霊は私たちの中に、そのことを明確に示してくださいます。
イエス様は私たちと共にいてくださいます。みことばは神の憐れみ深さと愛とを常に教えてくれています。
そこには「見えるもの」に心を奪われすぎない姿勢が求められているのです。この世の評価や評判では神様の「憐れみ深さ」には気づけないのです。

パウロはコリントの信徒への手紙第 2、4 章と 5 章の中でこう書きました。
4:16 だから、わたしたちは落胆しません。たとえわたしたちの「外なる人」は衰えていくとしても、わたしたちの「内なる人」は日々新たにされていきます。
4:17 わたしたちの一時の軽い艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。
4:18 わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。
5:1 わたしたちの地上の住みかである幕屋が滅びても、神によって建物が備えられていることを、わたしたちは知っています。人の手で造られたものではない天にある永遠の住みかです。
・・・
5:5 わたしたちを、このようになるのにふさわしい者としてくださったのは、神です。神は、その保証として“霊”を与えてくださったのです。
5:6 それで、わたしたちはいつも心強いのですが、体を住みかとしているかぎり、主から離れていることも知っています。
5:7 目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。

神様は、私たちが神様の心をもっと深く知り、神様の喜びを共有することができるように、私たちを新しくし、新しい心を与えてくださったのです。

そのために「この世に倣う生き方」ではなく「新しい生き方」「見えないものに心を向ける生き方」が重要なのです。
祝福がありますように。
＊＊＊＊
礼拝説教映像はこちらです。
https://youtu.be/uVWX257C4mU